

# 史幸工務店・工法シリーズ 2

史幸工務店が展開している【ハイブリッド・エコ・ハートQ】工法について紹介いたします。

住宅は新築しさえすれば、快適に成るとお考えの建て主様もいますが、それは大きな間違いです。新築しいえも施工店に確かな施工技術がなければ、新築した直ぐ後で、後悔することになります。この工法シリーズで住宅建築に対する正しい施工法や性能値などを紹介致しますので、これから住宅をお考えの方は是非、このシリーズにご期待ください。

## 危険な住まいの温度差 - 2

### 知らなかったでは済ませられない温度差と健康被害

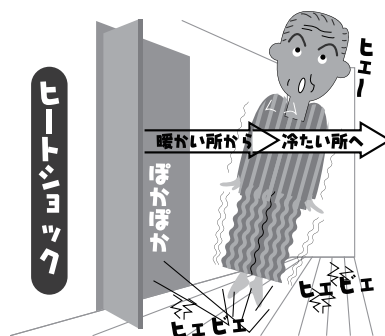
#### ■新築したからこそ起こる病気もあります。

多くの建て主は、新築すればどんな住宅でも快適になるはずだという思いこみがあります。確かに現代の住環境は昔と比べて快適になりましたが、正しい施工をしてくれる施工店を選択しなければ、昔とは比較にならない程、建材や不良設備などからの健康被害が深刻化しています。したがって建て主の皆様にも、欠陥住宅から受ける健康被害とはどんなものか、欠陥住宅を建てない、建てさせないためにはどこに注意すれば良いのか、正しい知識が必要になってきました。VOC（揮発性有機化合物）といっても木材からもでますし、消臭剤や洗剤など様々なものが発生源になっています。大切な家族を喘息やアトピーから守るためにも正しい建材の知識が必要です。



#### ■家族を守るはずの住宅にこんな危険が……。

外気の寒さ暑さなどの自然条件や危険から守るはずの住宅も、その性能が悪いと、かえって危険を助長する凶器に変わってしまいます。温度差が人体に及ぼす影響を「ヒートショック」といいます。暖かいところから冷たいところへ移動すると急激に血管が収縮してしまいます。それが脳卒中や心臓病の発症原因になってしまふのです。脳卒中は、長い間、寒冷地の塩分のとり過ぎによる病気と思われてきましたが、塩分の獲り過ぎよりも住宅内の温度差の方が数倍も危ないことが分かかって参りました。高性能住宅の普及に伴いそれらが年々解消されるにつれて、寒冷地の脳卒中は確実に減っています。現在では、寒冷地よりも暖かい地域が脳卒中の多発地帯に変わっています。



#### ■室内の温度差がなぜ危険なのでしょう。

温度差がなぜ問題なのか？それは血圧の上昇と密接に関係してくるからです。1日の内で血圧が最も低くなるのは、就眠後の1~2時間だといわれています。このような寝ている(低血圧)状態から急に立ち上がりますと、それだけで血圧は**10ポイント**も上がります。高血圧の人やお年寄りなどは、就眠中に尿意を催してトイレに立とうとするとそれだけでも危険です。さらに、就眠中の布団の中の温度は、夏・冬ともあまり変化がなく32~34℃位といわれています。例えば、冬、今までの一般的な住宅では廊下は暖房していませんから、5℃位に想定してみても、布団から廊下に出る間の温度差は27℃以上もあります。この場合、血管が急速に伸縮し、血圧は急激に**30ポイント**位も上昇します。これが**ヒートショック(温度変化による急激な血圧上昇)**といわれる現象です。普段、血圧が**120mmHg**位の健康な人でも、急激に**150mmHg**位にあがってしまいます。このような、急激な血圧の変化に対応することが困難なお年寄りや、高血圧、心臓病などの病歴を持つ人は、弱った血管が切れるなど、何らかの障害を受ける原因になります。

